



時の鐘のほかにも興味津々

関東一円の知事、小江戸川越をゆく

関東地方と山梨・長野・静岡の各都県知事等が一同に会する関東地方知事会議が、10月31日に市内で開催されました。会議終了後、埼玉県の上田清司知事をはじめ、神奈川県くろいわゆうじの黒岩祐治知事など7人の知事が、川越まつり会館や蔵造りの町並みを視察。

川越まつり会館では、同まつりの歴史や山車だしについての説明がありました。その中で、ホールに展示されている山車をどこから入れるのかという説明に感心した様子でした。蔵造りの町並みでは、シルバーガイドの解説とともに、蔵造りの建物や時の鐘を見学。時の鐘では、高さが奈良の大仏とほぼ同じことや1日に鐘が4回鳴ることなどの説明がありました。「鐘の音はどこまで聞こえるのですか」とシルバーガイドに質問する場面も。

各都県のリーダーの皆さんに小江戸川越を知ってもらうよい機会となったのではないのでしょうか。

オリンピックとオリンピックバリューを学ぶ

11月5日・6日、富士見中学校で「JOCオリンピック教室」が行われました。この教室は、オリンピック出場経験者（オリンピック）が先生となり、「オリンピックの価値（バリュー）や精神」を伝えることを目的としています。

授業の前半は体育館でゲームを行い、後半は教室でオリンピック自身の競技経験などを交え、オリンピックバリューについて話を聞きました。「オ

リンピックと自分は関係ないと思っていましたが、全力で取り組むことやチームワークなど、学校生活に生かせることが分かりました」と柘植心暖さん（中学2年生）。



今回先生を務めた2人のオリンピック。左・オリンピックバリューについて説明をする湯元進一さん（ロンドンオリンピックレスリングフリースタイル55kg級銅メダル）=11月5日。右・ゲーム中作戦を考える生徒にアドバイスをする足立夢実さん（ロンドンオリンピックシンクロナイズドスイミングチーム5位入賞）=11月6日



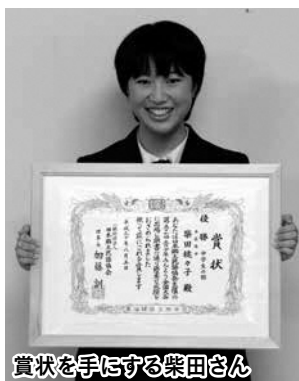
民謡を多くの人に知ってもらいたい

柴田桃々子さん（中学2年生）は、8月に東京都内で行われた、「青少年みんよう全国大会」中学生の部で優勝しました。「初めて経験する同点決勝でしたが、優勝できてうれしかったです」と振り返ります。

柴田さんが民謡を始めたのは、2歳の時。父の隆章りゅうしょうさんは民謡の指導者で、自宅には稽古場がありました。

生まれた時から民謡を聞いていた柴田さんにとっては、民謡を始めることは自然なことでした。発表会の舞台上で泣いてしまったこともありましたが、年を重ねるごとに舞台に立つことに慣れてきたそうです。初めは唄だけでしたが、小学2年生から三味線を始め、今では太鼓や津軽三味線にも取り組んでいます。

小学生の時、クラスで自己紹介をした際に、ほとんどが民謡のことを知らなかったという経験から、民謡をもっと知ってもらいたいと思うようになりました。そして今では、日本の民謡を世界に広めたいと考えています。そのために、「父のように尊敬される民謡の指導者になりたい」と柴田さん。日本の民謡を多くの人たちに知ってもらうため、柴田さんは民謡を続けていきます。



賞状を手にする柴田さん